

院長にインタビュー

院長
くが てつ や
久我 哲也 先生

「感謝の心で、より良い治療をご提供できるように努めていきたい」

「くが歯科医院」は、1998年に長生郡睦沢町で開院されたクリニック。

院長である久我哲也先生は、国際口腔インプラント学会の認定医※であり、インプラント治療におけるスペシャリストです。また漢方療法など、様々な治療法も併用され、患者様の身体に負担をかけない、よりよい医療を提供されています。

今回はそんな久我先生に気になるインプラントのことやクリニックのことなどについて伺いました。

※ 国際口腔インプラント学会 DGZI Japan 認定者

私自身インプラントを経験したからこそ、患者様の立場になれる

—— まずはいきなりですが、久我先生が考えるインプラントの最大のメリットとは何でしょうか？

インプラント治療は、設備環境がしっかり整い、臨床経験が豊富な歯科医師が行えば、失われた天然歯の代わりとして、口腔機能を回復してくれます。

やはりインプラントの最大のメリットは他の歯を痛めず、顎の骨に殖立することでしっかり噛める点だと思います。又、自分の歯で食べているかのような



自然な点も大きなメリットです。

—— しかし、インプラントは「何となく怖い」というイメージを持つ方も多いと思いますが、実際のところどうでしょうか？

もちろん、誰もが多少の不安はおありかと思えます。以前は私自身、インプラントの治療を受けていなかったのですが、痛みなどの質問に答えるには多少の戸惑いがありました。

局所麻酔での手術中でも痛みを訴える方はおられません。

しかもインプラント手術の翌日に鎮痛剤を服用しない方が大半です。

今までは、患者様の感想や様子をお伝えするに過ぎなかったのですが、15年程前に私自身の歯を1本抜歯し、インプラント埋入の手術を受けました。

それからは自身の経験を踏まえて、より患者様の立場になり、インプラントの安心・安全についてご説明をさせていただいております。



更には、CT画像を元にインプラントシミュレーションソフトを用いて、より理想的な治療が可能となりました。

患者様の生活背景と健康状態、歯に対する思いなどを丁寧に伺う

—— ご自身の歯を抜いてまで体験されるとは、患者様への強い責任感が感じられます。ところで、久我先生は常に進化するインプラントの技術、知識をどのように習得されておられますか？

1965年にスウェーデンで初めて人の顎骨に埋入されたインプラントは、患者様が亡くなるまで生涯にわたり41年間口腔内で機能しました。

それ以降もインプラントはより多くの研究・検証等によって、改良が続けられております。

それらの様々な研究成果を学ぶべく、海外での骨移植・造成のセミナーやインプラントに特化したスタディグループ(勉強会)、国際口腔インプラント学会等に参加しております。

—— それでは、患者様とコミュニケーションをとる上で心掛けている点はどういうところでしょうか？

患者様とのコミュニケーションは、**患者様の生活背景と健康状態、そして歯に対する思いなどをしっかりお聞きするように心掛けて**おります。

インプラントを検討されるほとんどの方は、歯周病や虫歯などでご自身の歯を失っており、欠損の状態は多種多様です。

患者様が歯を失った原因を探り、その原因が適切に改善された後、これから埋入されるインプラントと残っている歯の長期的な予後が見込まれることを確認し治療に進んでいきます。

—— それでは久我先生、ずばり！クリニックの強みはどこでしょうか？

強みは口腔内を全身から診る診療体制です。

口腔検査の後、インプラント治療と並行して必要に応じ、ご希望の方には漢方療法・点滴療法・栄養療法等で感染を予防・改善し、免疫を向上させるためのご提案をいたします。

—— 全身のことを考えて治療していただけると患者様も安心だと思います！

それでは、最後によろしいですか。

久我先生にとってこの仕事の喜びとは何でしょうか？

私が歯科医を目指したのは、13歳の時に歯科医となって治療をしている夢を見た事がきっかけと言えます(笑)。そのような経緯もあり、歯科医の道は自分にとって使命のようなものを感じています。

この仕事の喜びはやはり、医療という仕事を介して人に関わりながら人生を学べることだと思っています。覚悟と情熱を持ってスキルアップを重ね、思いやりをもって行動すれば、人生は素晴らしい出会いに恵まれるのではないのでしょうか。

これからも感謝の心を忘れず、患者様により良い治療をご提供できるように努めて参ります。

